

みんなとともに笑顔いっぱい — 「101」 新たなるステージへ —



みんなとともに



「庄」が、すごいのです。3年生の宿題や自主学習ノートを見ると、ものすごい「エネルギー」を感じます。漢字の練習、算数のドリルなどの宿題に毎日取り組んでいますし、最近、自主学習も充実し、それがバラエティに富んでいて、おもしろいのです。決してやらされているのではなく、家庭で喜んで学んでいる様子が伝わってきます。その「エネルギー」に負けそうです。



「新しい生活様式」の下での「行事」の実施

先週から今週にかけて、「修学旅行」と「授業参観」を行いました。このコロナ禍で、実施するかどうか迷った行事でした。「ゼロリスク」を求めるなら、何もしない方がよい、ということになります。でも、生きている限り、必ず「リスク」はあります。この2つの行事の実施は、「新しい生活様式に留意しながら通常の教育活動を行っていく」という“決意表明”でもあります。（ただし、「レベル1」という条件付きですが）

◇9月4日（金）「修学旅行」



班ごとの「フィールドワーク」を活動に入れたのは、思い出に残る体験をさせたい、という“担任の思い”があつてのことでした。「3時間半」という時間でしたが、子どもたちは綿密な計画を立て、ハプニングにも対応しながら、充実したときを過ごしました。

ある学校では、保護者の方から疑問の声があがり、急遽「フィールドワーク」をやめたと聞きました。こうやって実現できたのも、保護者の皆様のお陰です。

子どもたちには、「感謝」の心とともに「大切な思い出の一コマ」にしてもらえると、うれしいです。

◇9月9日（水）「授業参観」



子どもたちの学校での様子をやっと見ていただくことができました。特に、1年生の保護者の方は待ち遠しかったことでしょう。授業参観前にはしゃいでいる子どもたちの姿が印象的でした。来校に感謝いたします。

◇9月9日（水）「学校評議員会」



地域を代表する方から意見をいただく場です。懇談後に各教室を回りましたが、子どもたちの真剣に学ぶ姿勢を高く評価していただきました。学校を応援してくださるとっても心強い味方です。

【校長のつぶやき】 その42 「校長の见ている景色」

私は、ワンマンである（らしい）。「トップダウン」とか「校長が決めていく」とか「保護者の意見を聞いて決めるべきだ」とか、耳に入ってくる言葉や、学校評価アンケートの意見などを踏まえると、そういうことのようにだ。

私は、校長の仕事は「決めること」だと考えている。「やる」のか「やらない」のか、2案あったら「どちらにするのか」。それは、「どちらが正しいか」ではなく、校長として「どちらを選ぶか」である。

例えば、本校の日課表では休み時間が5分であるが、「5分では足りない。10分がよい。」という意見がある。私も「その通り」だと思う。その考えは「正しい」のである。ただ「校長が見ている景色」に照らして5分を「選んでいる」に過ぎない。

この「学校だより」は「校長の见ている景色」を伝えるための“大切なツール”である。なぜそれを「選ぶ」のか「選んでいる」のかを理解していただきたいと考えている。しかし、10人いれば、10人が違う“景色”を見ている。その“景色”は全く同じにはならない。

私は、ワンマンである。でも、“聞く耳”は持っているつもりである。それぞれの见ている“景色”の話をお聞かせいただきたいと思います。でも、最後は「校長の见ている景色（自分が描く理想とする本校の姿）」に照らして決めさせていただく。それが「校長の仕事」だからである。だから、私はワンマンなのである。